

アジアの友

The Asia-no Tomo

4-5

APRIL-MAY

2013

**メンドサ島田オルガ恵子さん 学位取得までの10年
ABK 同窓生募金目標額達成への御協力の御礼
「オン・サン」②（「アジア・アフリカの独立と発展に尽した人々」より）**





新校舎の引き渡し式が行われました



3月29日（金）、完成した ABK 日本語学校の新校舎（建物）の引き渡し式が行われました。当日は、設計担当の（株）橘建設設計事務所と建設担当の（株）小川組から関係者が出席、ABK 役員との間で調印および鍵の引き渡しが行われました。

2013 年度最初の花金会が開かれました



4月19日（金）、2013 年度最初の花金会が開催されました。花金会はアジア文化会館（ABK）で暮らすフロアー学生（面接により入寮が許可された学生で、会館の自治・諸活動を中心となって推進し、職員とともに会館の運営を担う学生たち）が、フロア生同士および職員と親睦を深めるため月一度行われる会で、1983 年にそれまでの学生文化会に代わり発足しました。この日は新フロア生 7 名の歓迎会で、2013 年度のスタートを切りました。

（2013 年 4 月現在のフロアー生出身国…ベトナム、フィリピン、ミャンマー、インドネシア、バングラデシュ、カンボジア、マレーシア、中国、韓国、台湾、日本。計 11 国・地域 22 名）

アジアの友

2013年4-5月号 第502号

目次

ご挨拶

- 2 ABK 同窓生募金 目標額達成への御協力の御礼
 小木曾 友 (財) アジア学生文化協会理事長

巻頭

- 4 メンドサ島田オルガ恵子さん
 学位取得までの10年
 11 益田兼房先生に聞く

歴史

- 14 「アジア・アフリカの独立と発展に尽した人々」より
 オン・サン (Aung San) 第2回

私の意見・私の体験

- 18 「魅力ある日本である為に今考えること」
 チャン クオック ホーアン ~ベトナム

知友会通信

- 20 奨学金情報、イベント情報
 22 ご入会、ご寄付のご報告 (2013年2月、3月)
 23 Ivent & Festival
 24 ABK 同窓生募金 (2013年3月31日現在)
 30 おたより

《お詫びと訂正》

本誌前号 (No.501) に誤りがありました。お詫びをして下記の通り訂正をさせていただきます。

記事「オン・サン」
 P16 右段下から11行目
 (誤) 電将校
 (正) 雷将校

記事「気仙沼の復興状況」
 P29 1段10行目
 (誤) 一二〇〇人
 (正) 一二〇〇〇人

<表紙> アジア文化会館と夜桜 (2013年4月)

ABK同窓生募金 目標

2010年6月、「一人一万円、一燈やがて万燈となるごとく」をモットーに始まった「ABK同窓生募金」は、長きにわたる日本の経済不況、東日本大震災・原発事故、タイ大洪水、ヨーロッパの経済危機、円高、などの逆風にもかかわらず、タイやマレーシアの同窓生の間から始まった募金協力活動が、「一波は万波を呼ぶ」運動となって世界に広がり、2013年3月末、募金額が5000万円を超え、無事目標を達成することができました。

ここに、誌上をお借りして、ご協力下さいましたすべての皆様に心から御礼申し上げます。ご協力下さいました全ての個人・団体のお名前は、記念銘板に記載し、新しく開校する予定（2014年4月）の学校法人ABK学館日本語学校の新校舎内に掲示し、末永く保存させて頂く所存です。

もう一度、言葉に尽くせぬご協力を下さいました全世界のABK同窓生の皆様に深い感謝の誠をささげ御礼の言葉とさせていただきます。

2013年5月

(財) アジア学生文化協会

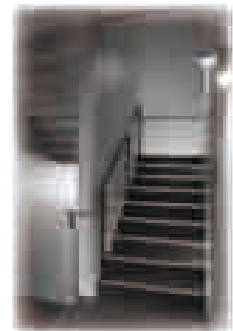
理事長 小木曾 友



額達成への御協力の御礼

2013/3/31 現在 ABK 同窓生募金国別集計

国・地域	件数	合計額	備考
日本	399	21,588,712	含、在外/同一人複数回 内、協会役員・評議員(除く、常勤職員) 28名・153.7万円、職員34名・858.4万円
マレーシア	353	14,946,836	含、在外/同一人複数回/日本人27/シンガポール1
タイ	51	6,856,007	内日本人17
中国	45	2,485,000	含、在外/在日他
ベトナム	7	1,423,000	含、在日
ブラジル	14	657,627	
韓国	7	420,000	含、在日他
カンボジア	1	300,000	在日
シンガポール	8	380,140	含、在日
インド	7	190,000	含、在日
香港	4	170,000	
台湾	15	600,000	含、在日
ミャンマー	1	50,000	
バングラデシ	2	40,000	含、在日
イラク	1	10,000	
インドネシア	1	10,000	
パキスタン	1	10,000	在日
ペルー	1	10,000	在日
ラオス	1	10,000	在日
その他	1	30,000	
合計	920	<u>50,187,322</u>	





およそ8年を過ごした日本の“我家”アジア文化会館（ABK）の前で

2003年に日本政府の国費外国人留学生としてペルーから来日したメンドサ島田オルガ恵子さんは、「文化の記憶とその流れ、人々の生きてきた証を後世に伝えるため」に歴史的建造物保存をテーマに研究を続けてきた。そしてこの春、晴れて立命館大学大学院（理工学研究科総合理工学専攻）にて、博士という最高学位を取得した。来日からおよそ10年、オルガさんの学位取得までを振り返ってみた。

都研修生から国費留学生に

オルガさんは、リマの聖心女子大学を2002年に卒業後、東京都の海外技術研修生に採用され来日、「将来こんな施設をペルーにつくりたい」と考えていた江戸東京博物館を中心に東京都の施設で約8か月間の研修を行った。その際、東京藝術大学（藝大）でも週1回の聴講を受けることになり、益田兼房教授と出会う。藝大は歴史都市景観保存の調査・

研究作業を行っており、その中心となっていたのが益田先生だった。

益田先生は、当時調査を行っていた東京・谷中にオルガさんと都庁の担当者連れ出し、熱心に町の説明をしてくれたという。

「一軒一軒の建物の説明はもちろん、路地の特徴や昔はどうだったのかということまで、先生は谷中の素晴らしさとその町の保存の大切さを説明してくれました。その話からは先生が谷中のことをどんなに愛しているの



来日してすぐ、益田先生（左端）との最初の調査で台湾へ。左2人目〈2003.11〉



藝大修士課程修了式にて。文化財保存学専攻建造物研究室の修了生、先生方と。袴を履いて（下段中央）〈2006.3〉

か、日本人としてどんなに誇りを持っているのかといったことが伝わってきて、凄く感動したんです。そして、この人のような研究者になりたいと思いました。だから日本に来たのは大学で益田先生のような考察の仕方や視点を学びたい、先生の弟子になりたいと思ったからなんです。」

大学生の頃よりいつか日本に留学して、日本の伝統的建造物に関する研究で博士号を取得したいと考えていたオルガさんは、益田先生との出会いもあり、藝大に入学することを決意する。そして日本政府（文部科学省）の国費外国人留学生として2003年10月に再び来日、すぐに台湾、フィリピンを対象にした益田先生のフィールドワークに参加して、論文も書き上げた。

ところが藝大への入学も正式に決まり、あとは4月の新学期を待つばかりとなった2004年3月、益田先生は藝大を退官し京都の立命館大学に移籍することになってしまう。

「その時は目の前が真っ白になるほど不安になりました。」

留学早々に大きなショックを受けることになったオルガさんだが、お父様の「日々変化する学問の世界で、新しい先生から新しいことが学べるのは良いチャンス」という言葉で前に進む決心がついたという。

論文のテーマは新しい指導教官の方針によりそれまでペルーで行っていた「リマ保存地区の歴史都市博物館」から「歴史的町並みの景観保存」へと変更となり、当初は戸惑いを感じたオルガさんだが、この変更がライフワークとなる現在の専門へと繋がって行くことになる。

また大学こそ違い、益田先生はオルガさんに頻繁に連絡を取り、研究の進め方や指導教官とのコミュニケーション方法など、様々なアドバイスを送り続けた。オルガさんは留学3年目の修士課程から博士課程への進学時にも指導教官が変わることになり大きな不安を抱くことになるが、この時も益田先生のアドバイスにより、自分の研究と今後の希望を臆することなく新しい指導教官に伝え、理解を得ることが出来たという。



ABKのイベント「秋祭り」で、かけがえのない各国の仲間たちと。左4人目(2008.10)



藝大卒業式(博士過程単位取得)。文化財保存学専攻建造物研究室の修了生と。ミャンマーの民族衣装を着て(左2人目)<2009.3>

「結果的に、私は藝大で3人の先生に見ていただいたことになり、文化財保護の過程と其特征をそれぞれの先生から学びました。先生方の保存に対する考え方は少しずつ違いましたが、3人の先生がいてそれぞれの意見があったからこそ、自分の考えが固まったのだと思います。」

都市計画法と伝統的建造物群保存地区

こうして、藝大で研究を続けたオルガさんは、日本で歴史的町並みの景観保存が難しいのはそこに人災ともいえる人的要因があるからだという結論を導き出す。それは日本独特の都市計画に起因するものだという。

「日本には都市計画の観点から作られた法律や条例があり、それらに基づいて町づくりが行われています。しかしこの都市計画の中では文化財保護については考慮されていないんです。一方で文化財には「伝統的建造物群保存地区」という制度があって、歴史的な

建造物や町並みはこの制度の下に守られます。ところがこの制度で保存されるのは建造物が集中する一区画だけで、その周りは都市計画法に基づき不燃化や高層化などの防災を口実に、取壊しや建直しが行われます。結果として昔ながらの歴史的な町並み、景観は崩れてしまうことになります。私はそういった点を解決できないかと思い研究に取り組みました。」

留学以来5年半にわたり調査・研究を続けてきたオルガさんは、文科省の奨学金が終わる2009年3月、藝大で博士課程の単位を修了。あと1年がんばって審査付き論文を1本完成させれば博士号が取得できる、ということまで来ていた。

ところがここまで来てオルガさんは、自分の研究を完成させるために不可欠な、ある大きな問題の存在について悩んでいた。

それは“古い建造物と防災”に関わる問題だった。都市計画と建築基準に関わる問題を解決しても、この防災の問題を解決しなけれ

ば景観を維持することはできない。特に地震の後に発生する火災から市民を守るためには、古い建物を壊し、新しい建物に造り替えるのが最善だ。歴史的建造物や景観を壊すのは、人命を守るためだと言われれば誰も文句は言えないだろう。

ところが同じ地震帯にある母国ペルーの場合は、都市計画制度の中で文化財保護が行われており、まず歴史的な建物の保存・修復が都市計画の重要な課題となっている。同じ地震帯にある国でありながら、この違いはどこにあるのか。オルガさんはこの防災の問題を抜きに、博士論文は完成しないのではないかと考え始めていた。

「防災の問題を解決しなければ、私の論文には結論が出ず、何の役にも立たなくなってしまいます。それに、防災と保存という観点から研究をすると、もっと面白くなる、もっと社会の役に立つまとまったものができるのではないかと感じたのです。」

そんなおり、オルガさんは益田先生から願ってもない誘いを受ける。それは立命館大学の歴史都市防災研究センターでリサーチアシスタント（RA）として、ペルーとの共同研究を行わないかというものだった。景観保存と防災を研究するにはもってこいの環境である上に、RAとして給与ももらえる。しかも将来やりたいと考えていた日本とペルーの掛け橋に成りうる仕事であり、胸躍らせずにはいられなかった。

もっとも立命館に移るということは、博士課程に入り直し、一から単位を取得しなければならないということだ。藝大に残ればあと1年で博士号が取得できるかも知れ

ない。オルガさんにとって、藝大を辞めるという決断は簡単なことではなかった。

そしてギリギリまで悩み抜いたオルガさんは、決まりかけていた民間の奨学金を辞退し、立命館大学に移籍することを決意する。

「私自身、景観保存の難しさは災害と防災に起因するところが大きいという結論に達していましたし、やってみたかったペルーとの連携プロジェクトが始まるということで、立命館のお話には大きな将来性のようなものを感じました」

こうして来日6年目の2009年4月、オルガさんは立命館大学歴史都市防災研究センターに移籍、理工学研究科総合理工学専攻歴史都市防災分野に在籍し、晴れて益田教授の助手として研究を進めることになった。

歴史都市景観保存と防災

母国であるペルーとのプロジェクトに取り組みながら自分の研究を行える理想的な環境。そう思って立命館にやってきたオルガさんだが、提携プロジェクトをゼロから立ち上



ペルー・アレキパ市にて。ペルー国立工科大学研究者とアレキパ市文化局専門家と益田先生（2010.3）



リマ国際シンポジウム。ペルー・リマ市の日秘文化会館にて〈2010.12〉

げるための企画書作りに始まり、ペルーの提携大学探しやその後の契約書・報告書類の作成、翻訳作業など、慣れない事務処理に忙殺される毎日が続いた。

「それまでいただいていた文科省の奨学金はどのように使っても誰かに報告する必要はありませんから研究だけに没頭できましたが、RA という立場はまったく違い、本当にこの頃は辛く厳しい時でした。」

次々と舞い込む業務を少しでも和らげるため、時には益田先生が学校との間の盾になってくれることもあったという。その後2010年4月からの2年間は日本学術振興会の特別研究員という立場に変わったが、その忙しさは相変わらずであった。

2011年4月には益田先生が客員研究員になり現場を退いて東京に戻るというショックな出来事が訪れるが、オルガさんは引き続き益田先生の研究協力者として東京に通い、指導を受け続けることができた。そして大学の海外研究支援経費により、積極的に南米やヨー

ロッパ各国を回り、たくさんの遺跡、文化財を調査、次々とその成果をまとめていった。

オルガさんにとって最後の論文を書き上げるのにまず克服しなければならなかったことは、藝大でやってきた「歴史都市の景観保存」と立命館で行う「歴史都市の防災」をいかにスムーズに結びつけるかということだった。

オルガさんはこのテーマを、自ら企画し2010年12月にペルーで行った立命館大学とペルー国立工科大学との提携プロジェクト「文化遺産危機管理国際シンポジウム」で提案、考察した。そして「政府と学者と住民がリンクしなければ、景観保存と防災の両立はできない」という結論を出し、「リマ宣言」として採択した。そしてこのリマ宣言はICOMOS=イコモス（国際記念物遺跡会議）本部にも承認されることになった。

オルガさんは長年の研究を通した結果として、各国・各文化はそれぞれの良さを持っており、その良さは建物にも影響を与えてい



ペルー北部シカン遺跡の調査。益田先生、ペルーリマ聖心女子大学の先生と〈2011.9〉

る。だからそれぞれの国の歴史的建造物の修理・修復・活用はその国・地域の歴史を考えて行うことが最良だという一つの答えを見つける。

「例えば地震帯の地域で地震が頻繁に起きるのは大昔からのことです。歴史的建造物は地震が起きるたびに補強され、それが繰り返されてどんどん地震に対して強い建物となりました。それは昔の人たちが建物の材料、部材の形状等を考えて修理・復旧を行ってきた結果であり、だからその建造物は現存している。つ

まり、その手法は尊重しなければなりません。これまでの歴史、修復の過程を研究せず、これは弱い部材だから鉄を入れて補強しようという結論を出してはいけないということです。鉄筋を入れるのは簡単ですが、いつかその鉄筋は錆びていきます。そしてそれに伴いその回りの元々の材料も腐っていく。結局その文化財はダメになってしまうんです。」

オルガさんは益田先生らの熱心な指導のもとに論文を完成させ、2013年3月に見事博士（工学）号を授与される。文科省の奨学生として2003年に来日してから実に9年半をかけての悲願達成だった。

最高の恩師の存在

出会った頃に抱いたオルガさんの益田先



博士号授与式にて。左から益田先生、オルガさん、立命館大学理工学研究科の指導教官（2013.3.22）

生に対する尊敬の念は、2人で各地を調査で回るうちにますます大きなものになっていった。

「益田先生の感心するところは建造物に対する見方です。その建造物の素晴らしさを見つけるのはどの研究者でも同じですが、益田先生は建物の歪んでいる、痛んでいるところを見つけて、シャーロックホームズのようにその原因を分析してしまうんです。私は先生のそんなところが大好きでした。さらにその建物を有効に活用するために、今何をすればいいのか、どんなプロジェクトをすればその建物が生かされるのか、といったことまでをその場で一気に考え出してしまう。そういうところは先生の本当に素晴らしいところで、私もそうなりたいと思っています」

オルガさんと益田先生の10年近くに及ぶ

師弟関係は、博士号授与とオルガさんの帰国をもって一段落する。オルガさんは自らをここまで導いてくれた益田先生に対して今どんな思いを持っているのだろう。

「私のわがままなところをよく聞いてくれました。いろいろ我慢するところが多かったと思います。これからは離れてしまいますが、日本イコモスなどでの活躍振りをペルーで聞ければ嬉しいなと思います。そしていつかペルーにもシニアボランティア制度などを利用して来てくれれば嬉しいです。本当に先生の一生懸命やるところは素晴らしい。最近はお

疲れなのか、そういったバイタリティー溢れる姿をあまり見ていませんが、きっと私を独立させてペルーで活躍させたいと思っているからだと理解しておきます（笑）」

留学生の一途な研究への思いとそれに責任を持って応えた指導者が、最高学位の取得という一つの大きな結果を生み出した。とはいえ、オルガさんにとってこれはスタートに過ぎない。スペイン語、英語、そして日本語を操るオルガさんには、これから世界という舞台で歴史的建造物保存のための様々な活躍が期待されている。

メンドサ島田オルガ恵子

ペルー生まれの日系ペルー人。リマ市聖心女子大学建築学部卒業、2003年国家資格建築家。バクレイ・コンノ建築事務所勤務を経て、2002年東京都海外技術研修参加。2004年4月文部科学省国費留学奨学金で東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻修士課程入学。歴史都市景観保存の国際比較を一貫して研究。2006年以降イコモス会員。2009年3月同博士課程単位取得。同4月立命館大学大学院理工学研究科博士後期課程入学、G-COE 歴史都市防災研究センターRAとして、従来のテーマに地震防災を加え、ペルー国立工科大学地震災害研究所との連携研究等、国際的な調査研究に従事。2010年から2年間、日本学術振興会特別研究員DC-2。2013年3月、博士号（工学）授与。

◎ オルガさんの研究成果が本に！



『地震帯における世界文化遺産の保存－「リマ宣言」にみる文化遺産危機管理の新たな視座』(日本語・西語、2013年3月)

著者：メンドサ島田オルガ恵子 監修：益田兼房 編集・製作：(株)すずさわ書店 発行：立命館大学歴史都市防災研究センター

本書は2010年の『リマ宣言の国際会議報告書（英語・西語）』に次いで、2冊目の出版です。博士論文を中心に読みやすく再構成し、益田先生に監修いただきました。ペルーや日本のような地震帯諸国では、壊れても再建することで世界遺産は現在まで残ってきました。しかし、地震のない欧米諸国が中心の従来の文化遺産保存修復の理念では、再建したものは本物ではない可能性があります。リマ宣言は、そのような国際状況を変えるために、ペルーを中心とする地震帯国の専門家達が、初めて声を上げた国際文書でした。本書は日本での研究成果をまとめた、私にとっては記念となる本です。

(メンドサ島田オルガ恵子)

メンドサ島田オルガ恵子さん 学位取得までの10年

益田兼房先生に聞く

オルガさんを来日当初から、およそ10年近く指導・見守り続けてきた益田先生に、お話をうかがいました。

——— オルガさんの印象をお聞かせいただけますか。

まず非常に熱心であるということと、少しおかしな言い方かもしれませんが、研究の勘が良いと思います。

——— オルガさんの研究のどのようなところに勘の良さ、優れたところを感じられたのでしょうか。

オルガさんは当初、ペルーにある日本建築の古い建造物の保存修復をしたいというお気持ちから、日本の歴史的建造物のことを勉強しようと大学に来られたと思います。しかし当時藝大で行っていた町並み保存に関する作業をやる中で、ペルーと日本というのは町並み保存の上で都市計画の果たす役割が全然違うなと思われたのではないのでしょうか。

ペルーでは都市計画の役割というのは、古い町並みを大事にして、それを都市の誇りとして守って行くことにありますが、日本の都市計画では災害や火災から歴史的な町並みは弱いということで、古い建物は壊して建て直すというのが当然のこととされています。しかし彼女は、その考え方は違うのではないかと、ペルーと日本は同じ地震帯なのにどうしてこんなに違うのかと思わ



れたのではないのでしょうか。

それはまさに私たち日本の建築史家もそう思っているところだったわけですが、ではヨーロッパや中南米のスペイン系の国の都市計画がどうして歴史的なものを自ら保存しようというふうになっているのかというと、それは言われてみれば確かにそうですが、その実情というのは、あまり分かっていなかったわけですね。

それで私自身、文化財保護法がなんとか文化財を守っている日本の状況とは、西欧や中南米はかなり違うのだということがわかりましたし、そういう意味ではオルガさんの比較研究というのは非常に面白く価値あるものではないかと思いました。

そういったことで、東京藝術大学（藝大）で論文を書かれたのですが、博士論文をまとめるにはもう一つくらい何かが足りない

のでは、という段階の時に、防災というテーマに出会ったのだと思います。

当時私は立命館大学に、まさに「歴史都市の防災」というテーマで呼ばれていたものですから、そういう所での研究ということでもどうですかということで、オルガさんには声かけてみたわけです。結果、もう一つ博士課程をやるような形になるわけですが、取り組んでいただくことになりました。

—— 藝大では博士号取得が手に届くところまできていたようですが、それについて先生はどのように考えられたのでしょうか。

そのことについては、完全に本人の選択に任せました。むしろ気掛かりだったのは、奨学金が終わりますから、代わりとなる資金的なサポートが立命館で出来るのかという問題でした。これについては、たまたま私が関わっていた立命館大学21世紀COEプログラムとグローバルCOEプログラムという、割と大型の補助金が続けて取れまして、リサーチアシスタント(RA)の枠が20名近くありましたから、これであれば、国費留学生と同程度のお金が出せるということで、もし立命館に来るのであれば、その道がありますよということを話しました。

—— オルガさんに限らないことと思いますが、留学生の日本語による論文作成を指導するお立場としての御苦労というのはいかがでしたか。

お母様は日本人ですから、日本語についてはある程度フォローされていたと思うのですが、私も特に論文として仕上げるという段階では、抜けていることがないか、論文的な表現になっているか、といったこと

はチェックさせていただきました。

藝大の時はあまり留学生のお世話をすることは出来なかったのですが、立命館では、「留学生の日本語論文というのは指導教官が自分で書くぐらいの気持ちで取り組まないと、特に博士論文というのは大変なんだ。研究室のみんなで力を出し合って作るのが留学生の博士論文なんだ」ということを他の先生方から言われました。私は正直、それは大袈裟なのではと思っていたのですが、その大変さは段々と身にしみて感じるようになりました。

ただし、オルガさんの場合優れているのは自分のしっかりしたアイデアを持っているということです。また写真や図面などを上手に使いまとめる力が非常にあるということで、言葉を超えて伝えやすい能力といますか、日本語そのものが多少不十分であっても、アイデアはこれだということがはっきりしていますので、そういう意味での苦労はありませんでした。

—— 先生が監修されたオルガさんの著書『地震帯における世界文化遺産の保存～「リマ宣言」にみる文化遺産危機管理の新たな視座』が完成しました。

たまたま国際比較の科研費がありましたので、この論文を本にするにはうってつけだと思い、出版社に相談をしました。そして出版社からのアドバイスをもとに章の順序を変えたり、部分的に分かりやすく書き直したりといった作業を行い、読み易いものにしました。出版社ではそれをまた丁寧に読み直していただき、きちっとしたものに仕上げていただきました。

もともと博士論文を使っていますので、一般の方の読み易さという点では限界もあるわけですが、これは書店で売るものではなく、国際会議などの場で、日本の資料として利用できればいいのではないのでしょうか。もともとオルガさんには、文化遺産の防災に関わる様々な基本的国際合意やその憲章などの資料集として使えるものを作りたいという趣旨がありましたので、スペイン語を後ろに付けて、ペルーでも使えるものになっています。

——— **オルガさんへの御祝辞と今後のご期待についてお聞かせください。**

非常に長い時間を日本で頑張られて国際比較の視点をまとめあげ、論文を作られたと思います。本当に心からお祝い申し上げます。オルガさんは日本とペルーだけではなく、他の中南米やヨーロッパなどの地域も見ておられますので、そういう国際的な視野を持った国際的な交流を今後ともペルーでしていただけるように、大学などを活動の拠点に活躍していただけるとうれしいと思います。

また、マチュピチュをはじめペルーの世

界遺産は日本人に人気が高いので、そういったものの価値をもっと日本人々によくわかってもらうような、ヨーロッパ人が理解しているペルーの世界遺産の価値ではなくて、日系人の観点でペルーの世界遺産をより深く研究されて、より深い価値を読み取っていただけるような活動をしていただけるといいと思いますね。

また、ペルーでは都市計画が文化遺産の保存をやっていますから、いろんなプロジェクトがあるのではないのでしょうか。大学の先生には教育や研究と、これらの具体的なプロジェクトを平行して行っている先生が大勢いると思いますが、オルガさんもそれらをうまく組み合わせてやっていただけるといいですね。

日本との関係で言えば、ペルーで研究したいという日本人の研究者はいろいろな分野の方がいると思いますから、そういう方たちのサポートをしたり、共同研究をしたり、様々な機会をつかまえて、この分野でがんばっていただけるのが望ましいと思います。

——— **ありがとうございました。**

ますだ かねふさ

益田兼房（工学博士）

1944年横浜生まれ。

横浜国立大学建築学科卒業、同大学院修士課程修了後、1972年3月京都大学大学院博士課程満期退学。京都大学博士（工学）。同4月京都府教育委員会文化財保護課技師、国宝重文建造物保存修理事業等に従事。82年1月文化庁建造物課調査官、84年ローマ文化財保存修復研究国際センター（ICCROM）研修、伝建地区、国宝重文建造物の修理防災、世界遺産条約、94年オーセンティシティ奈良国際会議等担当。99年東京藝術大学大学院文化財保存学専攻教授。2004年立命館大学教授、ユネスコチュア国際研修等を担当。11年、同大学歴史都市防災研究センター客員研究員。

現在、公益財団法人文化財建造物保存技術協会 調査研究員、日本イコモス理事、イコモス ICORP 文化遺産防災国際学術委員会理事。

「アジア・アフリカの独立と発展に尽した人々」より

オン・サン /Aung San (1915-1947 ビルマ：現ミャンマー) 第2回

アジア文化会館（ABK）は1960年に竣工してから運営母体の財団法人アジア学生文化協会創設者で理事長の穂積五一の指導のもと、アジア・アフリカ・ラテンアメリカの留学生・研修生が、民族・思想・宗教等の違いを超え、自由と平等の原則のもと共同生活を営み、勉学に励みながら互いに切磋琢磨し、各自の向上に努力を払い、それぞれ母国の複雑で、起伏のある現実を乗り越え、協力し前進することを目指し、学生文化会（ABKの自治会；留学生、研修生、日本人により組織）を運営。穂積の発案で、学生文化会でABK在館生の出身国の独立と発展のためにつくした先人たちのことを紹介しようと冊子の発刊が計画され、平坦ではなかった作業を経て1963年に発刊に至る。民族の自由の為、人類の平和の為に各国の独立と発展に尽くされた先人の写真と略伝はそれぞれの国のものが担当した。本の名称は、「アジア・アフリカの独立と発展に尽くした人々 Great Men of Asia and Africa」。また、これが契機となり、1964年ABKにおいてアジア・アフリカ・ラテンアメリカの独立と発展に尽くした先人たちの「慰霊祭」が行われ、これを経て、「アジア文化会館同窓会」が自発的に結成、設立された。

ここでは、この冊子の中でも力作とされた当時東京医科歯科大学医学部に在籍していたビルマのココレイさん〔来日：'58/04/09、ABK在館：'60/08/12-'72/03/16（没年）〕が執筆したオン・サン（Aung San；現在標記はアウン・サン；1915-1947；アウン・サンスー・チーは娘）を「アジアの友」で501号より3回に亘ってご紹介している。（原文は英文。日本語訳は小木曾友）

見せかけの独立

1943年8月1日、日本政府によってビルマの独立宣言が行われ、バ・モー博士が首相になった。オン・サン將軍は再び勲一等瑞宝章を授与され、防衛大臣に任命された。タキン・ヌーは外務大臣に任命された。

しかしながら日本、ドイツ、タイ及びその他の数か国によって認められたこの独立はただ名前ばかりのもので、そこには真実の自由はなかった。なぜならば、ビルマは依然として、ますます悪化して行く日本軍国主義者の手中にあったからである。

ビルマの石油、チーク材、米、及び鉍物資源は大東亜共栄圏の美名の下に日本に持去られてしまった。強制労働がはじめられ、ラングーン・バンコク鉄道建設の為に、多くのビルマ人が銃剣を突きつけられて強制的にタン・ビュ・ザヤの作業所へ送られた。物価は日に日に高騰し、またたく間にインフレがやってきた。それは日本軍が貨幣価値のない通貨を発行したからであった。それは普通の印刷物のようにただ印刷機で刷っただけのものであった。特に悪名高かったのは日本憲兵隊であった。

その訊問の際の非人道的な拷問は到る所

でよく知られている。一度憲兵隊に引張られると二度と帰ってくる機会にはなかった。ほんの短い電線や懐中電灯を持っているだけでスパイとして告発され生命を奪われた。家畜類は日本兵に食糧を提供する為に村から追い出された。家畜を奪われた農民はビルマの主要食物である米を作ることが出来なかった。

それは全く恐怖政治であり、反日的な意見を口にするビルマ人は皆逮捕され銃殺された。国民の唯一の希望は、今やようやく訓練され、組織され、その上ビルマの全民族から愛されているバマ・タマドー（ビルマ独立義勇軍）であった。

はやくも1943年8月、ボ・オン・ジー（退役将軍）ボ・モン・モン（同じく退役将軍で現在駐イスラエル大使）のようなビルマ軍の青年将校やタキン・ソー（現在地下に潜っている）の率いる共産党は地下運動を組織し、日本軍に対して決起する事を呼びかける秘密のピラが配られた。1944年5月、ビルマ軍青年抵抗団は決起の日を6月22日と定めたが、それはボ・ネ・ウィンによって7月22日に延ばされた。しかしながらいろいろな理由によって、1944年の抵抗計画は実現するに至らなかった。

名目的な独立の第一回の記念日に、ボジョー・オン・サンは、今やビルマ国民には何の意味もない独立についてはっきりと言った。「自由とは何か。それはどこにあるのか。今日ビルマにある自由は、ただ単に紙の上だけのものに過ぎないというのが真相である。それが真実のものになる迄には長い時間を要するであろう。」ボジョー・オン・

サンは、日本将校が集まっている前で、見せかけの独立についてあからさまに言う勇氣のある唯一の人間であった。日本のある高官は述べた。「オン・サンは誠実だ。もし日本人が彼と同じように誠実ならば彼は友人である。しかしもしそうでないならば彼は危険人物に成り得る。不幸にして日本の対ビルマ政策は余り誠実ではない。」

この日本高官は何か危険を感じ取ったのではないと思われる。8月4日から7日にかけてボジョー・オン・サンは抵抗運動の計画を作る為にペゲーで秘密の会合を開いた。反ファシスト組織（後に反ファシスト国民自由連盟—AFPFL）が作られ、共産党、国民革命党（後に社会党になった）を含むあらゆる政治的党派がこれに参加した。タキン・ソーが政治の指導者、ボジョーが軍の指導者であった。

1945年3月、バマ・タマドー（ビルマ独立義勇軍）は姿を消し、地下に潜った。ビルマにおける反日本軍抵抗運動は、ビルマの全民族、即ちシャン、カチン、チン、アラカン、カレン民族の団結の下に始まった。ビルマ人を愛し理解する多くの日本人は、もし自分たちがビルマ民族と同じ立場に置かれたならば同じことをやったであろうと言った。鈴木大佐でさえビルマの友人が日本軍の下で苦しんでいるのを見るに耐えず、部下の将校たちに日本軍国主義者たちと戦うために、反逆に加わってくれるかどうか一度尋ねたことがあったほどである。彼はビルマを支持したために日本へ帰るよう命令されたと言われている。

ビルマ防衛軍付の多くの日本人教師たち

はビルマを愛していたので、ビルマ人の友人が彼らに背いたということを簡単には信じられないほどであった。彼等のうちの何人かはビルマ兵の地下からの呼びかけに応じ、それに従った。また何人かは戦闘中に戦死し、ビルマ軍の昔の友人に助けられた者もあった。ボジョ・オン・サンは、ビルマ人は英国国民、日本国民そのものを憎んではないということを常に明らかにしていた。彼が望んでいたものはただビルマの独立だけであった。ボジョ・オン・サンはかつての連合国軍第十四連隊司令官、サー・ウィリアム・スリム陸軍元帥に語ったことがある。英国人も日本人も、いやどんな外国人も自分の国を支配してもらいたくないと。

1945年8月12日、ペゲーで開かれたビルマ軍幕僚会議でボジョ・オン・サンは軍を離れて政治活動に専心するよう決定された。会議の後、ボジョと9幕僚署名入りの声明が発表された。それは、世界大戦はすぐにも終わろうとしているが、ビルマの自由への戦いはその後も続けられるであろう、というものであった。

8月19日、現在ネ・トゥ・イエイン会議としてよく知られている国民集会が反ファシスト国民自由連盟（AFPFL）の主催で開かれ、ボジョ・オン・サンは議長をつとめた。

この歴史的な大集会において、全政党が連合して力強い統一戦線を作っている AFPFL の旗の下に、全民族が団結することを確認した決議が行われた。この会議においてなされたもう一つの重大な決定は、ビルマは絶対的な独立を要求するというものであった。

9月に入るとオン・サン将軍と幕僚たちは、

東南アジア連合国軍最高司令官、マウントバッテン大将からセイロンのカンディへ招かれた。カンディ会議ではビルマ独立義勇軍（バマ・タマドー）を解散し、そのうち 5,200 人を正規軍に吸収し、他に 3,000 人を予備兵にするという合意に達した。バマ・タマドーの残りの人々についてはオン・サンは国民義勇団という非武装軍事組織を作り、それに編入した。これらの人々は武装こそしていなかったが、必要が生ずればすぐに独立のために働くゲリラになることが出来た。ボジョはマウントバッテン大将から与えられたビルマ正規軍の副司令官の地位に就くことを拒絶し、軍を離れた。オン・サンは軍の指揮をやはり「三十勇士」の一人であるボ・レ・ヤに任せた。

6月には前ビルマ総督サー・ドーマン・スマイスがシムラからラングーンへ戻って来た。そして10月、彼は AFPFL の指導者を招き、その総督府参事の地位を提供した。15 ポストのうち 11 ポストは AFPFL に提供され、残りの 4 ポストは総督自身によって任命されることになった。AFPFL はボジョ・オン・サンを首席とする 11 人のメンバーを提出した。しかし総督はリストを変更することを希望し、その結果 AFPFL は全部の委員の名前を引込めてしまった。かくて総督は全員を自分の手で選んだのである。

シムラから総督は一つの白書を持って帰って来た。それによれば英国政府は 1935 年条例第 139 章に基づいて少なくとも向う 3 か年間直接ビルマを支配することになっている。このことはビルマが向う 3 年間依然と

して英国の植民地であることを意味する。しかしビルマ国民はこれ以上待つことは出来なかった。ボジョ・オン・サンの方強い指導の下に、交渉が失敗に終わった場合には戦う用意を整えた。莫大な量の武器・弾薬が全国至る所にこっそり隠してあった。正規軍に加わっているオン・サンの部下のビルマ兵は、指揮者オン・サンの命令一下相呼応することになっていた。国民義勇団の古参兵たちもまた同じようにいつでも彼の命令に従う用意を整えた。全ビルマ民族団結の確固たる基盤があつた抵抗の時以来既に出来上がっていた。モーリス・コリス氏は書いている。「反ファシスト国民自由連盟はもう一つ軍隊を生み出すことが出来た。連盟は抵抗そのものであった。英国及び日本の両方と決戦を交える抵抗体制は既にその基礎が出来上がっていた。日本は既に去った。英国は戻って来た。抵抗運動の課題の半分だけが果されたに過ぎない。それは全部完了する迄続けられるであろう。」

英国政府はボジョ・オン・サンの強い指導力と影響力をよく知っていた。総督ドーマン・スミスはビルマ担当大臣ベシック・ローレンス卿へ宛てた手紙の中で次のように書いている。

「オン・サンは今日のビルマに於て最も重要な人物であることを我々は事実として認めねばならない。全ての人々が彼を信頼し敬慕しているように思われる。彼の軍隊は彼を崇拜し、彼の言うどんなことでもするつもりでいる。彼は日本人に対して反乱を起こすためのあらゆる手筈を既に整えていたようである。もし我々がすばやくビルマに入つてこ

なかつたならば、反乱は既に起こっていたであろう。彼には何の野心もない。もし今ビルマで選挙が行われ、オン・サンが一つの政党を率いるならば、彼の声望は全国を風靡するであろう。」

英国政府の或る筋はボジョ・オン・サンは大英帝国にとって極めて危険であると考え、彼を逮捕することを望んだ。文官行政権がビルマに戻る以前にも、ビルマ国内行政庁長官パース少佐は次のように進言した。

「オン・サンは今後ますます厄介な存在になる。それ故連盟（AFPFL）とその軍隊とに非合法宣言を行い、オン・サンを逮捕して反逆者として裁判にかけろべきである。」しかしマウントバッテンはこの進言を退け、その後間もなくパース少佐をランス少佐に更迭した。

ブリッグス少佐とその幕僚たちはボジョの逮捕について独自の意見を持っていた。彼等は言った。「オン・サンの逮捕はビルマ軍の内部に反乱を起こす結果になるだろう。ビルマ防衛軍の解散後入隊した3千ないし4千のオン・サンの部下が反乱を起すであろう。オン・サンは依然として非常に大きな影響力を持っている。特に農村において大きい。青年たちは恐らくその報復のために決起するであろう。」

1945年11月18日、AFPFL主催の国民集会が有名なシュウェ・ダゴン・パゴダの下で開かれ、ビルマの全地方から代表が出席した。1946年1月26日、あの白書とビルマにおける英国の支配に反対するために、再び国民集会がAFPFLの主催で開かれた。

（つづく）



◀ 三重県「見町の海」(2011年)



▲ 来日4か月目に宿舎である駒場国際交流会館の仲間と富士山に登るところ。前列右2人目(2007年)

ばすぐに手を上げて質問をする。一方で東大の授業は寂しいなと思います。先生が質問をして、も学生は無言ですから…。

授業の方法も違います。欧米の大学は、先生と生徒が向き合って、先生がテーマを出してそ

れについて学生が意見を述べる。そして議論になって最終的に先生が結論を出す。そんな活

気のある授業を見ていると羨ましくも思います。

学生が受動的であるとい

う点はベトナムも日本と同じですし、アジアは全般的にそういう文化なのかもしれませ

ん。でもこれだけの教育環境を

もっている日本ならば、その文化は変えられるのではないかと思います。そしてそれは外国人留学生にとつての、日本留学への魅力にも繋がっているのではないのでしょうか。

今、大学のグローバル化という話題がありますが、グローバル化とはどういうことでしょうか。教育の方法について良い点を世界から学び、取り入れていくのであればそれは素晴らしいことですが、もし英語を話し、英語で授業をすることだけがグローバル化なら、日本の存在感は薄まるかもしれません。

僕は日本で教育を受けるのなら、日本語で受けるべきだと思います。もちろん英語コースはあっても構いませんが、あくまでも選択肢の一つで構わないと思います。それは、今の日本を築いてきた教育は日本語で行われてきたからです。

日本が凄いの、世界でもトップクラスの科学技術力を持ちながら、古い日本文化を世代から世代に伝えることが出来ているということだと思います。そしてそれは世界的に広がりがブランドになっています。ベトナムは特にそうですが、ほかの国だと何百年も前のものは今の時代には無くなってしまうことがほとんどです。

ただし、日本がこの日本文化を次世代に受け継ぎ、これからもそれを維持し続けるために、今の世代ではいろいろなことを考える必要がある

と思います。特に日本語については最近カタカナを使うことが多いですね。僕は外国人ですが、カタカナ言葉を使うのは嫌いです。先日も研究室で先生が「君たちはアウェアしましたか?」と学生に質問しましたが、僕には意味がわかりませんでした。その後、英語の「aware」を認識することではないかと想像したので、なぜそこでカタカナ言葉を使わないといけないのかがわかりません。

安倍首相も、発言を聞いていると「私はハッピー」とか、よくカタカナを使っています。でも僕は、「ハッピー」と言うのなら「幸せ」だとか「嬉しい」とか、適切な日本語の表現をしてほしいと思うんです。そうでないと、日本語の純粋さを保てなくなってしまうのではないのでしょうか。そして広い意味で日本文化を残していくことは難しくなっていくのではないかと思います。その時は、留学生が日本で学ぶ意味はなくなるのかもしれないね。



◀ 同じ高専(鳥羽商船高等専門学校)のベトナム人留学生・ホアン先輩の送別会で京都旅行。先輩と一緒にいる時間は楽しかった(2010年)

魅力ある日本である為に今考えること

チャン クオック ホーアン (Mr. TRAN QUOC HOAN) ベトナム

東京大学工学部電子情報学科4年生

僕はベトナム国家大学ハノイ校の2年生の時、日本政府国費留学生として日本に来ました。僕が合格した高等専門学校(高専)留学生コースは、まず日本語学校で1年間日本語を学んだ後、高専の3年生に入学し卒業まで3年間学ぶコースです。その後、希望者は大学の編入試験を受けて、通常は大学3年生に編入できます。ただし、僕が受験した東京大学(東大)は試験も非常に難しいのですが編入にも厳しく、2年生からのスタートになります。

大学2年生で学ぶことはハノイの大学や高専で勉強したことと主要なところは重なりますから、1年間の復習と考えるのは少しもったいない。僕が学部を卒業する頃、ベトナムの大学の同級生たちは、もう4年間の社会人経験があるわけで、社会に出るのがもと遅れる高専留学生としては、この1年間はなんとか短縮できないのかな、というのが正直な気持ちです。

東大については勉強のための環境作りが素晴らしいですね。施設も本も先生方も、学びたければそのための道具は何でも揃う、というのが東大の素晴らしいです。それに僕の勉強仲間

多い学生たちばかりで、彼らは将来、必ず社会の重要な場所活躍するように感じます。そんな彼らと付き合うのは、将来の人脈作りという意味も含めて、とても大きな財産になるのではと感じています。

また、僕の学科については先生と学生との関



係がとても良く、学生が発言しづらいとか質問できないということはありません。日本の大学の先生方は、十分な報酬に部屋や教材も揃っていますから、学生と積極的に対話が出来環境にあります。しかしベトナムの場合、大学の先

生だけでは十分な収入を得られず他の仕事を兼ねている場合が多いので、授業が終わったら学校からいなくなってしまうです。ですから、日本に来ていつでも先生に聞けることのありがたさを実感しています。

反対に(東大に限らず)日本の大学の不満な点は常に受動的でも過剰なことが出来てしまう、ということです。

「College is a place where a professor's lecture notes go straight to the students' lecture notes, without passing through the brains of either.」

これは、アメリカの作家 Mark Twain 氏の言葉ですが、まさに日本の教育の現状ですね。先生が一方的に喋り黒板に書いたことを学生はそのままノートに写すけど、頭には入っていない。本当は黒板から頭へ、そしてノートへと、この3つは三角形にならないといけないわけです。僕は日本に来て、日本の教育を受けられて良かったと思っていますが、そこは変えなければいけないところだと思います。

僕は今、インターネットを利用して欧米の大学の授業を聴講していますが、向こうの大学生はとても積極的です。わからないことがあれ



※ 各情報の詳細は主催団体ホームページ等でご確認ください。奨学金情報は、日本留学情報データベースサイト = JPSS (<http://www.jpss.jp/ja/>) にて検索が行えます。

奨学金情報

■ CWAJ 外国人留学生大学院女子奨学金 (NJG Program)

対象: ①日本以外の国籍を持ち、かつ日本に永住権を持たない女性で、2014年度(2014年4月ー2015年3月)に日本の大学院に学位取得を目的に在籍していること。②出願時に勉学を目的に日本に在住していること。海外からの応募はできない。③英語と日本語の書く・話す能力を、ある程度備えていること。④同時期に日本国内または他国政府、他の団体や公共機関から年額150万円を超える奨学金や助成金を受ける者、企業留学の者は応募できない。ただし、学費ローン、授業料免除および留学先の大学の仕事で得た報酬は助成金にあたらない。⑤これまでにCWAJから奨学金を受けたことのある者、およびCWAJのメンバーは応募できない。

給付金額: 200万円

採用人数: 1名

応募方法: 主催者WEBサイトで詳細を確認。

願書をダウンロード

願書提出期間: 10月9日(水)～10月22

日(火)(最終日消印有効)

主催・願書送付先: 〒141-0021 東京都品川区上大崎2-24-13-703 CWAJ センター

CWAJ 奨学金委員会

WEBサイト <http://www.cwaj.org/>

■ 公益財団法人 東電記念財団奨学金給付

対象: ①平成26年度に日本国内の大学の博士後期課程への進学を希望する者、または現在博士後期課程1年もしくは2年に在籍する者。②平成26年4月1日時点で、28才未満であること。③小論文(6,400字以内)を提出すること。④学業成績・人物ともに優秀であり、心身ともに健康で、指導教官等の推薦を受けられるもの。⑤国内の大学の博士前期・後期課程に在籍しているものであれば、国籍は問わないが、申請は全て本人が日本語で申し込むこと。⑥受給途中で留学する場合は、その期間分の支給はいたしません。⑦現在、当財団の助成を受けていない者。⑧本年度、当財団の他の募集に応募していない

者。⑨指導教官の推薦が受けられる者。

給付金額：月額5万円

給付期間：平成26年4月より正規の最短期間

業年限修了時まで

採用人数：3名程度

申込締切日：6月28日（金）（必着）

申込方法：申込書をWebサイトからダウンロードし、必要事項を記入の上、主催団体に

申し込む

主催団体：公益財団法人 東電記念財団

東京都千代田区有楽町 1-7-1 有楽町電気ビル

北館 12 階 / ☎ 03-3201-2659 Fax 03-

3201-8630 Email : tmfinfo@tmf.tgn.ne.jp

Web サイト <http://www.tgn.or.jp/tmf-zaidan>

イベント情報

J.TEST 実用日本語検定／ビジネス J.TEST

J.TEST 実用日本語検定は、外国人の日本語能力を客観的に測定する試験として、1991 年から実施されており、留学生、会社員、日本語学校生など、年間約 7 万人以上の方が受験しています。

実施予定日：J.TEST・・・第 109 回 7 月 14 日（日）（メ切 6 月 19 日）／第 110 回（ビジネス無し） 9 月 8 日（日）（メ切 8 月 16 日）／ 第 111 回 11 月 17 日（日）（メ切 10 月 23 日）

開催地域：東京、名古屋、大阪、神戸、福岡

受験料：J.TEST 3,600 円 ビジネス J.TEST 4,500 円

申込方法：インターネット、郵送、書店申込（東京・大阪）

主催者：日本語検定協会・J.TEST 事務局

東京都新宿区坂町 28 三廣ビル 9 F ☎ 03-6273-1814 e-mail info@j-test.jp

ホームページ <http://j-test.jp/>

BJT ビジネス日本語テスト

BJT ビジネス日本語能力テスト（以下 BJT）は、受験者が受験時にどの程度の日本語によるビジネス・コミュニケーション能力を持っているかを測る能力テスト（Proficiency test）です。結果は IRT（項目応答理論）に基づいた統計処理により 0～800 点で採点され、J1+～J5 の 6 段階のレベルで評価されます。

実施予定日：第27回11月17日(日) 受付期間 ^{うけつけきかん} 7月1日～10月11日

実施地域： ^{じっしちいき} 東京 ^{とうきょう} 横浜 ^{よこはま} ^{なごや} 名古屋 ^{きょうと} 京都 ^{おおさか} 大阪 ^{ふくおか} 福岡 ^{おおいた} 大分

受験料： 7,000円

申込方法： インターネット、コンビニエンスストア、書店申込

主催者： ^{ざいだんほうじん} 財団法人 ^{にほんかんじのうりよくけんていきょうかい} 日本漢字能力検定協会 〒600-8585 ^{きょうとししもぎょうくからすまどおりまつばらくだ} 京都市下京区烏丸通松原下る五条 ^{ごじょう} 烏丸町398

☎ 0120-509-315 (無料) e-mail bjt@kanken.or.jp

ホームページ <http://www.kanken.or.jp/bjt/>

MEMBERS

〈会費とご寄付の報告〉

2013年2月

正会員

(1口)

増井 潤一郎	中野区
小木曾 建	世田谷区
小野寺 武夫	国分寺市
田川 明子	港区
関川 弘司／郁子	千葉市
伊藤 源之	東久留米市
アジア・コミュニティ・センター21	文京区
鈴木 順子	須賀川市
山海 保	葛飾区
工藤 博司	酒田市
田中 多美子	我孫子市

ご寄付

小木曾 大	調布市
-------	-----

2013年3月

賛助会員

西谷 隆義	土浦市
-------	-----

正会員

(1口)

小田中 聰樹	仙台市
李 景珉	世田谷区
楊 青雲	江戸川区
中曽根 信	中標津町
北屋学園大学国際交流センター	札幌市
重野 幸子	白杵市
小川 巖	入間市
名越 修	三浦郡
廣瀬 園子	川崎市
三橋 隆資	習志野市
石川 清子	渋谷区
岩井 秀明	川越市
堤 祐子	江東区
孟令樺／計宇生	渋谷区
高道 俊彦	富山市
岩佐 佳英	文京区
久保 哲也	北区
佐藤 順子	浜松市
村田 忠禧	川崎市
白石 勤	千葉市
平田 熙	松戸市
渋谷 寧伸	西宮市
田中 利恵子	東村山市
堤井 信力	横浜市
馬杉 栄一	札幌市
野口 明美	三鷹市
張 延	取手市

埜村 宗郁	福岡市
横田 雅弘	千代田区
吉原 エツ子	始良市
東京都市大学留学生課	横浜市
(財)守屋留学生交流協会	千代田区
清水 勇治／泰代	高崎市
戴志堅／陳艶萍	県横浜市
駒場 一成	大田区
遠東国際貿易(株)	豊島区
泉 憲子	日野市
濱田 修	松原市
真弓 忠	渋谷区
植田 泰史	那珂市
稲垣 敏彦	湖西市
大野 大平	北区
大井 裕子	さいたま市
土居 征夫	世田谷区
新宿日本語学校	新宿区
田中 泉	練馬区
脇 英親	文京区

ご寄付

栗原 静子	気仙沼市
大島 京子	秦野市
平岡 昭子	目黒区
大野 大平	北区

Event & Festival

映画 **「飯館村 放射能と帰村」** 監督・撮影・編集・製作：土井敏邦

（東京）5月4日より 新宿 K's cinema にてロードショー

東京都新宿区新宿3丁目35-13 3F ☎ 03-3352-2471（新宿駅東南口徒歩3分）

一般 1500 円 学生 1300 円 シニア・高校生以下 1,000 円

アジア文化会館にて前売観賞券（1,200 円）販売中！

＜その他都市の上映予定＞（大阪）6月15日～28日 第七藝術劇場（愛知）6月以降 名古屋シネマテーク（福島）8月以降 フォーラム福島（兵庫）8月以降 神戸アートビレージセンター（広島）8月以降 横川シネマ

原発から30キロ以上も離れていながら、風向きと降雪・降雨のために大量の放射能に汚染され、「全村避難」を余儀なくされた福島県・飯館村。酪農の生業を失い、家族離散に追い込まれた二つの家族の「その後」の生活と、故郷や家族への思いを描きながら、原発事故がもたらした“故郷喪失”の深刻な傷痕をあぶり出す。

避難までの2～3か月間に及ぶ放射能被爆の不安、とりわけ幼い子供たちへの影響に若い親たちは怯え苦しみ続けている。

一方、政府は村民の帰村と村の復興をめざし、2011年末から「除染」効果の実験事業を開始した。しかしその効果は「子供たちが安心して暮らせる」レベルにはほど遠い。村人の中から、数千億円にも及ぶ莫大な費用をかける除染で、ほんとうに帰村できるのかという疑問や不安、不信の声が噴出する。

「帰りたい。しかし帰れないのでは？ではどうする？」

2年に及ぶ避難生活の中で、飯館村の村人たちの葛藤と苦悩は続く。



2009年度キネマ旬報文化映画ベスト・テン第1位に輝いた『沈黙を破る』、2012年度のベスト・テンでは第2位を獲得した『“私”を生きる』、そして本年3月公開の『異国に生きる 日本の中のビルマ人』と話題作が続く土井敏邦監督が、震災後、同じ“故郷喪失”の苦難を背負った“日本の中のパレスチナ”飯館村と村人たちを2年をかけて追った。人にとって“故郷”とは何か。「経済繁栄に不可欠」と喧伝される原発は人に何をもたらすのか。その「繁栄」のために私たちは誰を、そして何を犠牲にしてきたのか。「繁栄し続けること」がほんとうに人の幸せなのか——“飯館村”が私たちに問いかける。

ご報告

A B K 同窓生募金 (2013年3月31日現在)



おかげさまで
募金の目標額を達成いたしました。
ご協力ありがとうございました。

募金のご報告は『アジアの友』並びに
同窓会ホームページ< <http://www.abk.or.jp/abkd/fund/houmei roku.html> >で、
随時ご報告させていただきます。

- 目標額：5,000万円
- 募金額：50,187,322円
- 寄付者数：920件

〈 〉内は出身・在住国、地域、ABC順

2013ABK 日本語学校卒業パーティー有志 <日本>古谷恵美子、濱田修、服部まさ江、生田容子、香月富士日、掛谷知子、亀山稔史 / 幸子 / 泰、金澤けい、河合秀高、國府卓二、松井正枝、眞山静子、本木兼子、中曽根信、根岸幸子、大久保とも子、大島雅子 (2012/8)、佐藤順子、澤登晴雄、澤登千恵子、重野幸子、高道俊彦、田中利恵子、田井満里子 (2012/12)、西本梶 (2012/12)、外山経子 (2)、植田泰史、宇崎雅雄、山田裕子 (2012/7)、匿名1 <マレーシア> Amy Tan Choong Noi (陈春莲)、Ang Khoon Chye (汪坤才)、Chan Huan Pang (曾煥邦)、Chang Chew Chin (張昭成)、Cheng Ja Chong (鄭捷聡)、Chiu Jin Eng (周人英)・林恵冰、Foo Hee Hiang (符気強)、Foo Yuki (符優綺)、Gan Teck Yeow (顔得耀) / Tan Such Fang、Kong Guan Wie (江元偉)、Lee Mow Tiam (李茂添)、Lim Bok Hek (林木火)、Ng Chin Keong (黄振強)、Ng Kim Chai (黄金財)、Ngiam Tee Seng (嚴世清)、Ong Poh Heng (王宝慶)、Ong Thye Beng (王泰明)、Soh Keh Woei (蘇克偉)、Soo Seck Heng (苏锡兴)、Tan Boon Liang (陳文亮)、Tan Chee Kiong (陳志強)、Tan Kee Hang (陈继汉)、Tang Kok Lian (湯国亮)、Tang Miow Chin (湯妙晶)、Teh Chong Yee (テイ チョン イー)、Teo Kian Song、Teo Tiam Hwa (張添華)、Tian Sew Ming、Wong Jiunn Shyong、Wong Sheong Chin (黄錦进)、Yi Ko Marketing & Enterprise、匿名1、松島武司、白石和也 <台湾> ABK 在館台湾留学生有志、周順圭、張瑞騰 <中国> 孟令樺 / 計宇生、戴志堅 <香港> 曹其鏞

以上、72件

2013年1月31日以前の寄付者(848件)

バングラデシュ A.K.M. Moazzem Hussain、Hashimoto Islam Nurul (橋本イスラム・ヌルール、在日)

ブラジル Alberto Tachibana、Alice Nakamori、Francisco Ishihara、Hashiguchi Mariuza、Hiromu Onishi (大西博巳)、Matsubayashi Marcia、Mizuma Tachibana Aiko、Nelson Yamakami、Sekiya Tachibana、Tomooka Tizuko、Yamauchi Atsushi Yamauchi Kazuko

カナダ Chang Sou Wah (張素華、香港)

中国 【C】Cai Jian Ping (蔡堅平、在日)、Chen Hong Zhen (陳洪真)、Chen Xian (陳獻) 【D】Dai Zhi Jian (戴志堅 / 陳艷萍、在日) 【G】Gao Rong (高榮) 【H】Hironaka Gunji (広中軍二 (李軍、在日)) 【J】Jia Fu Zhong (賈輔忠)、Jia Hui Yi (賈蕙萱)、Jin Qiu (金秋)、Jing Dong Huan (金東澣) 【K】Kuo Nan Yan (郭南燕、在日) 【L】Lee Chun Li (李春利、在日)、Li Chen Xi (李晨曦、在日)、Li Hui Chun (李惠春、在日)、Liu Ming Hua (劉明華)、Liu Ying Chun (劉映春)、Liu Yue (劉越、在日)、Lu Xin Yi (呂新一、在日) 【M】Meng Ling Hua (孟令樺 / 計宇生、在日)、Meng Xiao Xiao (孟瀟瀟) 【N】Ni Yu (倪玉) 【O】Ou Yang Fei (歐陽菲、在日) 【P】Piao Shun Yu (朴順玉) 【Q】Quang Hao (全浩) 【S】Sha Lian g Xiang (沙蓮香)、Shang Jie (尚捷、在日)、Sun Qian Jin (孫前進) 【W】Wang Wei (王巍)、Wang Wen (王穩)、Wei Qing Ding (魏慶鼎) 【Y】Yan Hao (嚴浩)、Yang Yi Fan (楊一帆) 【Z】Zhan Xin (張新)、Zhan Xin Wang (張新旺)、Zhang

Hang (張航)、Zhang Yong (張勇、在日)、Zhou Xiang (周翔・黃軼)、張建敏

ドイツ Heng Fu Chong (マラヤ)

香港 Chan Sui Ngan (陳小雁)、Choi Man Wa (蔡敏華)、Leung Chi Shun (梁志瞬)、Yeung King Hong (楊經航) / 蔡金燕 (マレーシア)

インド AAawi (AOTS Alumni Association of Western India)、A. P. Wagle、ABK-AOTS Dosokai Chennai Center、Abul Sharah、Ashok Saraf、Grug Kumar (雅留宮久磨 (在日) / 澄子 (日本))、M. Ramamurthy

インドネシア Budhi Setiawan Kohar

イラク Mudhafar Al. Jabiri

カンボジア 忍足林基 (在日) / 美恵子 (日本)

日本 【A】ABK 留学生友の会、赤星裕、新谷美紀子 / 美也子、安藤哲生、新井敬二・由利、新井重光、荒川雄彦、アジアの新しい風 【C】Ch atty B.Q. (ワタナベ)、近山武子 (3)、千野克子 【F】藤原一枝、深澤のぞみ、福讓二、福本一、古川恵世、布施知子 【G】50周年事業委員会売上 (5) 【H】濱田洋子、浜崎長壽 / 和子、秦幸吉、橋口真人、林均、樋川好美、平井まりこ、平峯克、平岡昭子 (2)、平田熙、広江重徳、帆刈礼子、堀香奈美、堀幸夫、堀内智代子、細川哲士、穂積亮次 【I】井出遊、飯沼英郎、池田俊二、池森亮介、池野朋彦・晶子、池添尚行、稲垣敏彦、井上恵子、井上駿、犬塚雄大、伊佐玲子 (2)、稲澤宏一、石原廣、石原誉慎、石井信彦、石川毅・優子、伊藤郁子、伊藤順 (3)、伊藤源之 (2)、岩井秀明 (2)、岩井秀生、岩尾明、岩佐佳英、岩崎幸子 【K】甲斐

等、加倉井弘行(2)、兼重節、兼重道雄、兼重智雄、勝部純基、香月恵美子(2)、河合秀高、川上剛(2; 在スイス)、川崎依邦〔(株)シーエムオー〕(2)、菊池幸子、北マツ、北川泰弘、北原千絵、北山文泰(3)、倉部絹代、小林浩、小林泰子、小宮信介、金野隆光(3)、久保哲也、久保木裕一郎、工藤正司、工藤幹雄(6)、熊沢敏一、倉内恵孝、栗原静子(2)、黒田一雄、黒羽宏、久津間優子【M】町田恵子、町田航、牧美保子(2)、槇操、馬杉栄一、松平吉世、松井正枝(2)、松岡弘(2)、松崎松平(2)、真弓忠、宮野尾光正、宮内俊治、水須善幸、森尾正照、森下明子、村田忠禧、村山秀男【N】中原和夫(3)、中畠正喜(2)、中嶋源吾、中元菅根(2)、中村洋一、中野正明、中曾根信(3)、日本養成学会、西田祥子、西垣宰朋(2)、西原彰一、西嶋勝彦、西川恵、西本梶、西村清人、西谷隆義(2)、新田宣子(2)、仁田裕子、野田(小金丸)春美、野口明美、野村美知子(3)【O】小田中聡樹、小川巖、小川輝夫、小木曾大(2)、小木曾建(2)、小木曾友(3)、小倉尚子、小原正敏、大西一郎、岡島昭治、岡崎道子(2)、大木直美、大久保伸枝、大野大平、大里浩秋、大島光恵、岡部洋一、奥山節子、奥山義夫、大村光、小野寺武夫、小野里光博、大越英男、大澤龍、忍足絵美、忍足眞理、大杉立、大谷里恵子【R】六文会【S】斉木史(2)、斉藤雅史、齋藤美知子、齋藤やす子、酒井杏郎(3)、榊正義・正子、酒巻彩乃、坂元ひろ子、三溝弘悦、早乙女和義・博子、佐藤郁夫、佐藤正文(2)、佐藤玲、澤登千恵子(3)、関正昭、渋谷寧伸、清水国夫、清水勇治・泰代(2)、篠塚景市、白石勝己、白石勤、白鳥文子、代田泰彦、尚美学園大学国際交流センター、染谷公久、染谷誠、總寧寺、曾根文子、菅原照代、杉本宏樹、杉浦貴和

子、杉山兼一、栖原暁、鈴木繁、鈴木智、鈴木八重子、鈴木順子【T】田川明子、田口久美子、田口昌子、田尻英三、高道俊彦(3)、高木桂子(2)、高橋喜久江、高橋満、高橋作太郎(3)、高橋幸枝、高橋雄造、高野靖子、高柳直正、竹林惟允(3)、竹田肇・和子(2)、竹嶋俊紀、宅間薫(2)、田守智恵子(2)、田中千佳子、田中雅幸、田中美智子(2)、田中利恵子、田中紳一郎、田中多美子(2)、田中稔子・静子、田中洋一、谷口哲雄、寺門克郎(2)、寺尾方孝・三枝子、寺沢宏次、田井満里、田井良知、田井亮吉、戸田清、鴛田純一・由美(3)、東京華僑総会、富岡昭二郎、外山経子(10)、豊島由久、土屋元子(2)、土屋幸子、佃吉一(2)、鶴尾能子(2)、堤祐子(2)【U】内山敦之、宇戸清治、上高子、上田菜生、植田泰史、畝本昌介、漆畠才子【W】渡辺譲二、【Y】藪下勝、山田健一、山田守一、山田裕子(2)、山口憲明(3)、山本斉、山本出、山本章治、山野井昭雄、山之内正彦・萩子、山下靖典、山海保、山崎光郎(4)、山口誠、依田良子、横山昌幸、横沢喜久子、横山昌幸、吉原秀男、吉田裕子、吉田菜穂子、吉原エツ子、吉川英一(在中国)、湯山佳代、匿名希望(4名)、

韓国 崔銀珠(在日)、Hahn Young Khoo(韓英鳩)、西原景哲(在日)、Oh Bum Suk、Youn Seong Kook(尹誠國、在日)、Woo Su Keun(禹守根、在中国)

ラオス Chanthasone Inthavong(在日)

マレーシア 2012年ABK在館マレーシア留学生、2011年11月12日留日学生同窓会パーティー一同【A】Adelyn Ngo、Amy Tan(陈春莲)、Alan Tan Yu Poo、Ang Gi Moh(洪以谋)、Ang Khoon Chye(汪坤才)(2)、Ang Lip Chee(洪立志)、Ang Sheng Feng

(洪巧芬)、Ang Wan Leng、Apple Vacation & Conventions Sdn. Bhd. [苹果旅游有限公司 ; Koh Yock Heng (許育興)]、 Ariel Cheng (鍾欣霖)、Aw Leong Gee (歐良義) 【B】 Beh Chor Kim、Beh Teck Chuan、 Boon Woo Seng (溫武成) 【C】 CM Aung、 Cha Yee Seng (謝宇誠)、Chai Koo Peng、 Chan Huan Pang (曾煥邦、2)、Chan Kok Foo (陳国富)、Chang Chew Chin (張昭成) (3)、Cheang Chuan Ley、Cheang Sai Keong (シンガポール)、 Charles Chow (邹贵璋)、Chaw Kam Shiang (周錦生)、 Cheah Soo Lin、Cheong Bee Nah (鍾美娜)、Chew Ching Seng (周昌盛) (2) / Low Kim Lee (刘金莉)、Chew Fook Keong (周福强) /Goh Ger Teng (吳月婷)、Chia Hong Hyiap (謝鴻業)、Chia Li Teck (謝礼得)、Chia Mee Hang (蔡美賢)、Chin Yok Wan (陳玉旺) (2)、Chin Saw Kiun (陳少勤、在日)、Chiu Jin Eng (冰周人英) / 林惠冰、Chong Piang Wee (张炳辉)、Chong Teek Foh (張德福) (2) /Chow Soo Lin、Choo (2)、Yun Fah、Choong Chee Yee、Choong Yoon Seng、Chow Kwee Lin (邹貴仁)、Chuah Yeon Hang (蔡耀漢) / Keong Chin Huai (強青懷)、Chuan Seong Tiang (Jeff Tiang)、Chuei Wai Kong (朱威金光)、Clifford Lee (李進才) 【E】 Ee Ley Tiong (余励忠) (2) 【F】 Fong Cheong Thiam (洪昌添)、Fong Wee Keat、Foo Hee Hiang (符氣強) (2)、Foo Keah Keat、Foo Ming Lian (符明蓮)、Foo Siang Seng (符祥盛) (2)、Foo Soo Kong (符素光) (2)、Foo Yuki (符優綺) 【G】 Gan Kok Seng (顏国成)、 Gan Seu Kian (顏綉涓)、Gan Teck Yeow (顏得

耀) (2)、 Goh Peng Ooi、Goh Swee See (吳瑞獅) 【H】 Ham Poh Can (范宝权)、Ham Poh Chyan、 Heong See Yoon (香世运) (2)、Hew Boon Thai、How Chai Nguan (侯再源) 【J】 Joan Wai Kim Foh 【K】 Kang Chin Yeh (江晋業)、Kenneth Wong (黃復翔) (2)、Kevin Ng (吳錦強)、Khu Hwa Leng (邱華龍)、Koh Hong Hwee (許鴻輝)、Kong Guan Wie (江元偉)、 Kong Kwee Song (江回松)、Kong Sian Shih (江幸柿) 【L】 Lai Yoon Poh (赖永保)、劉・有村開順、Lau Kok Yong (刘国荣)、Lau Sau Hong (劉少峰、在日)、Lau Shiang Horng、Lau Weng Wah (刘润华)、Lee Check Poh (李志保) /Ng Sui Ying (黃瑞英)、Lee Chee Heong (李志雄)、Lee Kian Ling (李建霖)、Lee Kian Ling (李健霖)、Lee Kong (李廣) /Lam Chok Yak (2)、Lee Leong King (黎亮景)、Lee Liong Mui、Lee Miow Ying (李妙英)、Lee Mow Tiam (李茂添) (2)、 Lee Tee Boon (李智文) (2)、Lee Tiam Hing (李天興)、Lee Yuet Keong (呂月強) /Kek Sai Fong (郭思坊)、Leong Khee Hoo (梁其和) (2)、Leong Thiat Eng (梁德榮) (2)、Leong Wing Sum (梁永森)、Lew Kim Song (劉金雄) (2)、Liau Kok Wee、Liaw CK (廖俊光)、Liew Teck Boon (劉德文) (2)、Lim Bok Hek (林木火)、Lim Chee Tian (林志田)、Lim Chin Kok、林月秋 / 傳亮 (中国)、Lim Chin Ee (林振意) (3)、Lim Chong Chan (林忠贊)、Lim Hock Lai (林福来) (2)、Lee Li Soon、Lim Liong Chu (林良住)、Lim May Yan (Mmrcia Lum May Yan) (2)、Lim Peng Jin (Scientex Japan Co., Ltd.)、Lim Sin Yean (林欣燕)、Lim Soon Hang (林

順桁)、Lim Suat San (林雪珊)、Lim Thian Huat (林天发)、Lim Yok Chai (林意財)、Loh KC (羅国俊)、Loke Hon Yee (陆汉宇) (2) / June Tan (陈素芯)、Low Cho Kee (刘助基)、Low Han Peng (刘汉平)、Low Kim Lee (劉金莉)、Low Leong Meng (羅亮明)、陸培春留日センター、Lwee Lew Chen (雷柳菁)、Lwee Yuen Chiang (雷远江)、Lwee Yuen Tung (雷远东) 【N】 Na Chin Teong (藍振忠)、Ng Chee Meng、Ng Chin Keong (黃振強) (2)、Ng Chuan Aik (Tony Cang ; 黃泉毓)、Ng Eng Hooi (黃永輝)、Ng Kim Chai (黃金財) (2)、Ng Mee Wah (吳劍華) (2)、Ng Teong Guan (黃忠元)、Ng Thian Eng (黃殿英)、Ngiam Tee Seng (嚴世清) (2)、Ngwan Boon Ming (阮文明) 【O】 Ong Cheng Chuan (王清川)、Ong Cheng Han (王清漢)、Ong Ching Long (王建龍)、Ong Chooi Lee (王翠莉)、Ong Poh Heng (王宝慶)、Ong Thye Beng (王泰明)、Ong Wei Bing、Ong Yee Meng (王玉明) 【P】 Pang Choon Boon (彭俊文)、Pang Pow Kwee (方宝貴)、Pang Yuet Hueng (彭月紅)、Phang Siew Kiong (彭修强)、Poh Siew Hui (傅秀慧)、Puah Chin Chye 【Q】 Quah Saw Ting、Quah Soh Teah 【S】 Sam Cha Peng (覃澤平)、Seah Boon Chieng (謝文清)、Shia Wei Jong (余維忠)、Sia Ooi Poh、Siau Fook Siong (箫福祥)、Siew Kooi Kam (萧钜金)、Siew Moey Yen、Siew Soke Lee、Sim Ee Looi、Sim Eng Kang (沈永江)、Sim Kee Hong (沈其豐) (2)、Sim Kim Ling、Simon Liow (廖天發) / Ho CL (何俅伶)、Soo Ka Jin、Soo Kee Chee (蘇克智)、Soh Keh Woei (蘇克偉) (2)、Soo Seck

Heng (苏锡兴) (2)、Soon Kian Seng (孫健勝)、SKK Kaken (M) Sdn Bhd、Soon Sai Kheng (宋世勤)、Stanley Lian、Su Kui Sheng (蘇桂昇)、Sui Kwai Chan 【T】 Tan Ai Lak (陳愛麗)、Tan Boon Liang (陳文亮) (2)、Tan Chaik Kwang (陳澤光)、Tan Chee Kiong (陳志強)、Tan Chee Teong (陳治中)、Tan Cheet Yong (唐志勇) (2)、Tan Chew Mooi (陈秋妹)、Tan Hwee Ing、Tan Keah Moh (陳佳茂)、Tan Kee Hang (陳继汉) (3)、Tan Pang Tee (陈邦智)、Tan Peck Ming (陳碧明)、Tan Peck Ming (陳碧明)、Tan See Seng (陳時生)、Tan Soo Sin (陳素芯)、Tan Wee Pin、Tan Wee Seng (陈为胜) (2)、Tang Eng Huat (陳永發) (2)、Tang Gek Eng (陈玉英)、Tang Kok Lian (湯国亮) (3)、Tang Miow Chin (湯妙晶)、Tay Kiam Guan (鄭謙源)、Tee Choon Hong (2)、Tee Kian Meng、Teh Chong Yee (鄭忠義) (2)、Teng Kim Yin (鄧錦雲)、Teo Bee Hong (張美宏)、Teo Boon Lian (張文連)、Teo Chuan Soon (張川順)、Teoh Eng Choo (張映水)、Teo Kian Song、Teo Kim Chuan、Teo Kwee Swee (張貴水) (2)、Teo Tiam Hwa (張添華)、Teoh Eng See (張映絲)、Tey Khern (郑勤)、Tey Kian Teong (鄭建忠)、Tham Kok Who、Thye Meng Yu (鄭茗友)、Tiang Chuan Seong (鄭俊雄)、Toh Leong Chee (卓良志)、Toh Peng (杜平)、Ung Yat Keat 【W】 Wong Chao Hsiung、Wong Chee Ken (黃啓耕)、Wong Chin Shiuan (黃晋軒) (2)、Wong Choon Leng、Wong Fee Ping (黃慧萍)、Wong Jiunn Shyong、Wong Ka Seng (王家成)、Wong Kim Choy、Wong Kim Choy、

Wong Kok Hoi、Wong Kuok Hung (黃國鳳)、Wong Mei Kin、Wong Seng Keng (黃成耕) (2)、Wong Sheong Chin (黃錄進)、Wong Tzong Chyang (黃宗強) (2) 【Y】 Yap Men Fatt、YB Liang Teck Meng (梁德明)、Yeung King Hong、Yew Kuen Ying (姚群英)、Yew Siew Leong (姚瑞良)、Yong Chin Chew (楊清洲)、Yap Geng Yi (叶耿瑜)、Yong Hwee Yan、Yap Shin Woei (葉信偉)、Yew Siew Leong (姚瑞良)、Yong Cheng Yun (楊青雲)、Yong Hon Wee (楊漢威)、Yong Kian Teck (楊建德)、Yong Kok Lin (楊國霖)、匿名希望 (1) (B) 坂東慶彦 (F) 藤田陽一、深民崇夫 (G) 五条章二 (I) 石原政一、伊藤要、稲田幸司 (K) 越場直樹、工藤英弥、河野修、小松電機産業 (株) 代表取締役小松昭夫 (M) 水田康広、水野伸明、森下治幸 (O) 大須賀稔晴、貞包物産 (株) (S) 柴田保、下村安秋、白石和也、SKK Kaken (M) Sdn Bhd (T) 田中公治、塚本秀幸 (Y) 山内一弘、山川勇人、山縣みさ、山根行弘

ミャンマー Aung Kyaw

パキスタン A. R. Siddiqi (在日)

ペルー Olga Shimada Keiko

シンガポール Chia Guan Sey (謝元生)、Foo Choo Wei (在日)、Foo Yong Tse、顏尚強、王發其、Tan Choon Shian、Wong Meng Quang

台湾 張忠信、Chen Ai Chi (陳艾圻)、張忠信 (在日)、李淑維 (維維)、Lin Pi Chi (林丕繼、2、在日)、林登居・斎藤ヒサ子 (2、在日)、Liu Li Mei (劉麗美)、堤井信力 (在日)、廖婉淑、陳俊銘 (在日)

タイ 【A】 ABK and AOTS Almuni Association (Thailand)、Asami Hiroko (浅見博

子、在タイ) 【B】 Bandihit Rojarayanont 【C】 Chamlong Srimuang、Chanintorn Mekaratana、Chovet Yimsirikul 【D】 Ditdi Chatputtongul 【G】 Gannigar Koontanakulvong (2) 【I】 Itti Rittaporn 【K】 Kanzaki Sorda (神崎ソラダ、在日)、Kornkeo Praisontarangkul、Kraisorn Throngnymphchai (在日)、Krisada Visavateeranon 【M】 Meena Thamchaipenet、Mongkol Pianapitham 【N】 Navarat Srisuponvanit、Ngampho Patrawut、Niramai Thanatavee 【O】 Onozaki Tadashi (小野崎忠士、在タイ) 【P】 Patamavadee (Bongsayan) Narushiso、Phiphat Chaichanavichakij、Pilaipan Mekaratana (2)、Pisan Thanatavee、Pholchai Limviphuvadh、Pornanong Niyomka H.、Prayad Kongkasawad、Prayoon Shiowatana 【S】 Sathida Mekaratana、Saowanee Patrakarn、Shintaku Hikaru (新宅光、在タイ)、Sivaporn Sirilatthayakorn、Sucharit Koontanakulvong (2)、Suchittra Hunbuncharkit (2)、Supong Chayut-sahakij、Suthee Chutchaiwett、Suvit Vibulsresth 【T】 Technology Promotion Association (Thailand-Japan) (TPA; 泰日經濟技術振興協会)、Thai-Nichi Institute of Technology (TNI; 泰日工業大学) Tana Tangtrongsakdi 【V】 Vachiraneer Limviphuvadh、Vachiraporn Limviphuvadh、Vilai Tomorakul、Virat Thiravathanavong 【W】 Wannadee O'sorup、Wiwut Tanthapanichakoon 【Y】 Yanase Shuzo (柳瀬修三、在タイ)、Yoshiko Limviphuvadh

ベトナム Dao Thi Minh (在日)、Dong Du

(ドンズー日本語学校)、Le Quynh Chi (在日)、
Nguyen An Trung、Tai Anh Tien (在日)、

To Buu Luong (在日)、Tran Thanh Viet (在
日)

おたより

2013/3/21 廣瀬 園子

平素は大変お世話になっております。

このたびは「アジアの友」への訪問記の掲載を
いただき、冊子のご送付も頂戴しまして、あり
がとうございました。ABKの皆様の、アジア
の人々との長年にわたる交流の深さに、あらた
めて敬服する想いです。

ベトナムプロジェクトの進捗は以下の通り
です。

都内の大学院の腎臓内科の医師の方々から
は、慢性腎臓病の早期発見に役立つトレーニング
を、日本とベトナム双方で医療者の交流を行
いながら中長期的に実施することを提案してい
ます。

ただ、ハノイのバクマイ病院の先生からは、
中長期的なトレーニングももちろん重要なのだ
が、重篤な透析患者の為に、不足している透析
機器の課題について、それを実現するのは大変
難しいと思うが、ぜひ力を貸して欲しい、との
ご意見を頂いています。

私たちはスタディツアーの時に、壊れた透析
機器が廊下に7台も並ぶ現状を見ているので、
透析機器の寄贈を含めたご要望にお応えし
たいという気持ちは多くありますが、その一方
で、「物を差し上げる」ことを中心にした支援

だと、日本の医療者の協力を得られにくいのも
事実です。

日本が、なにかを無償で差し上げる国、になっ
ているのか、それとも、提案の仕方にもっと工
夫をするべきなのか自問自答する日々でもあり
ます。その点が、現状での大きな課題です。

ひとりで考えていても仕方がないと思うので
すが、途中で諦めるのは簡単なことなので、心
を寄せてくださる方々にご相談しながら進めて
いきたいと思います。

なにかアドバイスなどあれば、ぜひご教示く
ださいませ。今後共どうぞよろしくお願い申
しあげます。ありがとうございます。

2013/3/21 廣瀬 園子

平素は大変お世話になっております。

急遽でしたが、先週、単身でHanoiにまい
りまして、MUI先生とリエンさんと一緒に、
国立バクマイ病院に伺ってまいりました。

透析センターの先生達とmeetingを行い、医
療機器の調達の課題とこの秋の医療支援プログ
ラム実施に向けて、現在、日本の医療者と準備
をすすめている状況について、御報告しました。

皆様とても喜んでくださり、ぜひ実現を、と
おっしゃってくださいました。

単に、なにかをプレゼントするという目的での医療支援ではなく、両国の医療者が中長期的に交流をはかること、日本の医療の信頼性を高め、共に成長を目指す為のプログラムであることをお伝えしてまいります。

小木曾先生からのおたよりも、MUI 先生はとても喜んでおいでになりました。わたくしからも、ABK の皆様の温かいご支援に改めて御礼申し上げます。

プロジェクトの実現に向けて、目標を見失うことなく、清らかな心で、日越、皆様のお役に立つことに焦点を合わせるよう努めます。また折に触れて御報告いたします。

今後ともどうぞよろしくご指導のほど、お願い申し上げます。ありがとうございます。

2013/3/27 Foo Fee Hiang (マレーシア、ABK 同窓生募金発起人会メンバー)

こんにちは。嬉しい便りですね。今週中に Ang 先輩から送金する予定のリストをご参考に送ります。何と目標まで残り僅かになって来ましたね。今月末をもって募金の活動は完全に終了出来ることは、本当に嬉しく思っています。

2013/3/27 Foo Fee Hiang (マレーシアの ABK 同窓生募金発起人会メンバー)

ABK 同窓生募金はあと十数万円で五千万円の目標に達成出来ることになります。本当に皆様のお陰さまで、お疲れ様でした。残りの不足分は ABK 協会内にて完了出来ると思われまますので、今月付でこの募金活動は終了出来ると考えられます。発起人グループメンバーの皆様、それぞれの繋がりをもって大先輩達から後輩までにご協力を求め、皆様のお陰さまで、本募金活動がやっと目標達成見通しが

見えてきました。ここに、皆様にお礼を申し上げたく、このメールを発信させていただきます。お疲れ様でした！

2013/3/27 Foo Siang Seng (マレーシア、在シンガポール)

Foo Hee Hiang さんへ

この度 ABK の募金呼掛けにおいて多大な労力及び時間等をかけて頂いて大変ご苦勞様です。

これから留学生のなかで君のような大変熱意及び奉仕精神が一杯のような方がいたら留学生の将来はもっと明るくなると思います。どうかこれからもこの情熱が消えないように引き続き頑張ってください。では、取り急ぎお礼まで。

2013/4/2 栗原 静子

ただいま～！

29 日早朝ベトナムから帰国しました。東京はまだ桜見物が可能なようでしたが、出国日の朝に上野公園を一応見物したので、そのまま宮城へ戻って来ました。

初めてのベトナムはやはり同じアジア人のせいか違和感は余り感じがしませんでした。ホエ先生に確かに「アジアの友」をお渡ししました。ドンズー日本語学校を始め、障害児教育センター、聾学校の訪問など、とても貴重な経験をさせていただきました。正にスタディーツアーでした。

私としては里子に会えたのがやっぱり一番嬉しかったです。里子宅に着いた途端に親戚や学校の先生に大歓迎されて戸惑う程でした。里子は予想通り、静かで大人しい子でした（ご参考まで里子との写真を添付しましたのでご覧になって下さい）。勝手に山の上の小さな家を想像していたのですが、街の郊外の普通？の家で

した。母親とお兄さんだけの家庭なので、今後もできるだけ支援して行くつもりです。

それにしても、ハノイとホーチミンは格差を感じますね。ハノイは20年前の北京のような感じでしたが木々が多く、雰囲気は好きです（但し、あのオートバイの多さと無秩序に閉口）。

2013/4/12 FOO Hee Hiang (ABK 同窓生募金マレーシア発起人グループ連絡役；facebook より)

ABK 同窓生の皆様 お早うございます。

皆様のご協力により、ABK 学館日本語学校新校舎の工事が2013年3月29日付竣工が出来ました。また、学校法人「運営資金5000万円」のための「ABK 同窓生募金」活動も同日に目標を達成出来ました。

皆様のお陰様で上記の新校舎工事及び募金活動が予定通りに終了出来、本当に有難うございました。

さて、新校舎竣工記念式典及び祝賀パーティーを下記の予定に行なわれる連絡が入って来ましたので、皆様にお知らせします。

内容：「ABK 新校舎記念式典／祝賀パーティー／芳名録銘板除幕式」（仮）

日程：2013年10月26日（土）

場所：ABK 学館日本語学校

皆様、是非ご参加願いたく宜しく申し上げます。

2013/4/20 小原正敏（協会職員）

先日、87年9月生（専修課程1期生）が

訪ねてきました。彼は当時ポーちゃんと呼ばれて皆に可愛がられていました。ウオン・イー・ポー（香港）さんです。フォーム5で日本での進学をあきらめることになりました。当時英語がうまくなくクラスメートに習ったようです。多分、シェリー・ウオン（サウスオーシャンニッターズから派遣）さんからだったかと思います。それで翌年カナダに留学しデザイン関連の勉強をして、芸能関係で働くようになったようです。俳優、女優達に勧められその後オーストラリアで“BOWIE”ブランドを立ち上げたようです。作品がi-phoneあるということで見せてもらいました。見る前はエーどんなのという気持ちだったのですが、なんと本格的な作品でした。パリ、ミラノ、ニューヨークなど、日本では東京ガールズコレクションに出品する一流ブランドのデザイナー・オーナーでした。パリ3か月、ニューヨーク等3か月、東京1～2週間などとモデルの中で生活し、香港は1日位だと言っていました。

(<http://www.bowie.com.au>)

2013年4月18日 高乗沢（元ABK在館生、AOTS職員）・姜英園（夫人、元AOTS職員）

2012年10月18日に韓国高裁で無罪判決、2013年4月11日韓国高裁で無罪確定。関係者のみなさま、ご支援有難うございました。

ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人ですので、財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

協会のあらまし

名 称：財団法人アジア学生文化協会

ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
(ASCA)

所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長 小木曾 友

設 立：1957年（昭和32年）9月18日
故穂積五一氏創設

目 的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的和合と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

◇主な事業◇

- (1) 留学生宿舍の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社)日・タイ経済協力協会、ABK留学生友の会との連携・協力

◇会費（年額）◇

正会員 1口 1万円
賛助会員 1口 5万円
特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間3千円（学生2千円）でお送りしています。

本誌で広告してみませんか。

団体・企業を問わず、編集部へご相談ください。

後 記

ABK同窓生募金が目標を達成しましたことを関係者の皆様にもまずご報告いたします。大変嬉しく思っております。2013年3月の募金期日ギリギリの達成でした。学校法人設立と新校舎建設に伴う不足資金を同窓生、関係者にご協力いただこうと2010年6月にスタートしたにABK同窓生募金は、いくつかの高いハードル（円高、不況、2011.3.11の東日本大震災、2011年の未曾有のタイの洪水等）を乗り越え、目標を達成いたしました。募金にご協力いただきました皆様に改めてお礼申し上げます。この間の皆様からのご協力につきましては本誌でもご報告をさせていただきました。また、この募金を通じて、同窓生の皆様からは改めていろいろなことを学ばせていただきました。今後の協会の仕事の中で生かしてゆくよう努めたいと思っています。（F）

募金の達成と時を同じくして、昨年着手した3階建ての新校舎が予定通り3月末に完成し、この3月29日に建設業者からの引き渡し式が行われました。建設前に作成いただいた建物のスケッチとたがわぬ堅牢であか抜けたデザインの素敵な校舎が出来上がりました。早く使いたいという逸る気持ちを抑え、諸手続きを経て使える日を心待ちにしている次第です。（F）

なお、新校舎の竣工を記念して、2013年10月26日（土）に記念式典・記念パーティー（寄付者芳名録の記念銘板除幕式を含む）を開催する予定です。海外からの参加者も予定しています。（F）

今年は、4月半ば過ぎに各地で雪が降るという異常気象が続いています。春の彼岸が過ぎてもなかなか温くなりません。この春来日した東南アジアからの留学生たちは、若さとまだ寒さの経験がないこともあり、半袖のTシャツで元気で外出しています。風邪をひかないかと心配して声をかけますが、初めて経験する寒さをも楽しんでいるようです。（F）

アジアの友 2013年 4 - 5月号

2013年4月20日発行（通刊第502号）

年間購読（送料共）3,000円（学生2,000円） 1部 500円（税込）

発行人 小木曾 友
編集 友の友編集部
発行所 財団法人 アジア学生文化協会
東京都文京区本駒込2-12-13 (☎113-8642)
電話番号 : 03-3946-4121 ファクシミリ : 03-3946-7599
振替口座 : 00150-0-56754 E-mail : tomo@abk.or.jp
ホームページ : (<http://www.abk.or.jp/>)
published by ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
(ASIA BUNKA KAIKAN)
2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN
☎+81-3-3946-4121 ☎+81-3-3946-7599
Email : tomo@abk.or.jp
Home Page : <http://www.abk.or.jp/>

「アジアの友」の購読会員（年3,000円・学生2,000）にご入会下さい。振替用紙又は電話等にて。

第 100 回 A B K 帯津良一先生講演会（最終回）のご案内

演題

最後の晚餐と人間の尊厳 — 掛替えのない 20 年をありがとう —

A B K 帯津良一先生講演会は、1993 年 2 月の第 1 回講演「全体をみる眼—東洋医学の考え方」から丁度 20 年、この度 100 回を迎えます。今回が、最終講演となります。

●日 時 **2013 年 5 月 23 日（木）**

18 : 30 ~ 20 : 30（開場 18 : 00）

●会 場 **寿司処『御旦孤』 ☎ 03-5977-2424**

（アジア文化会館（ABK）隣接、グリーンコート敷地内／都営三田線千石駅 A1 出口徒歩 3 分、JR 巣鴨駅／駒込駅徒歩 10 分 東京メトロ南北線駒込駅／本駒込駅徒歩約 10 分）

●講 師 **帯津良一先生**（帯津三敬病院名誉院長 / 日本ホリスティック医学協会会長他）

●ご予約・お問合先

（財）アジア学生文化協会 帯津良一先生講演会担当

☎ 03-3946-4121（代） FAX 03-3946-7566（直）

受付時間：11:00 ~ 19:00（平日） * 左記以外の時間帯は代表電話で直接承ります。

E-mail : asca50com@abk.or.jp

HP : <http://www.abk.or.jp/abkd/news/index.html>

●参加費 **6, 000 円（含、受講料、懇親会費用、記念品代）**

* 参加費お振込先

①郵便振替

00150-0-56754

②みずほ銀行本郷支店

（普）No.506934

①の加入者名、②の口座名義はともに財団法人アジア学生文化協会

●備 考 今回は、キャンセルの場合の参加費はご返金できません。

